

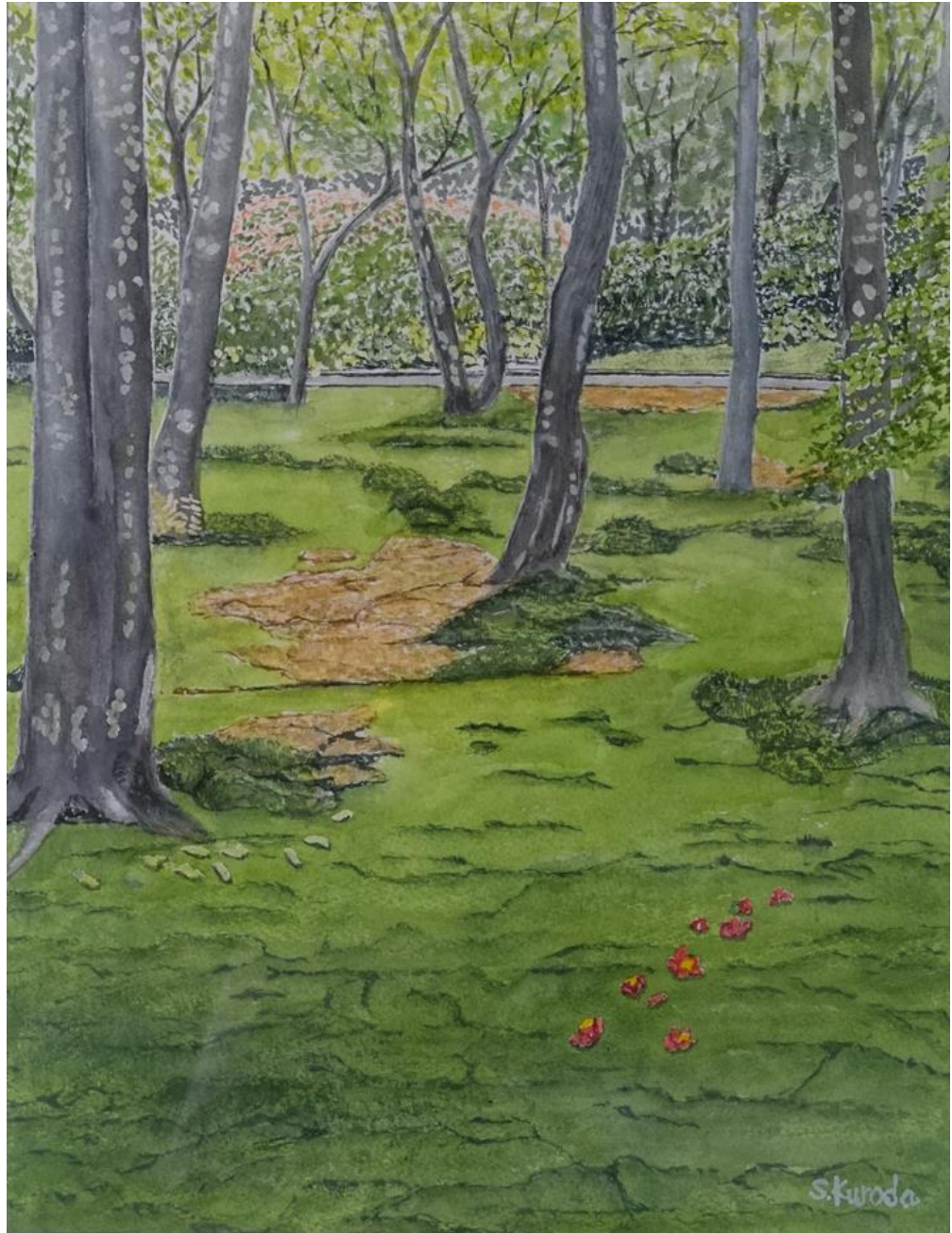


遠矢慶子「白いポットとピューター」F6（パステル）

作者コメント

喜田コメント

美しいパステル画です。遠矢さんは身近にあるなんでも作品にできる力を持っています。ポットと2個のピューター(すす)のカップの配置が実に巧妙です。この作品の最も優れていることは、ポットやピューターの質感・冷たさ・陰影が見事に表現されていることです。手前に3個のトマトを配置して作品に色の調子を整えましたね。トマトがなければ作品の色調が冷たく淋しいという気持ちが作者にあったのでしょうか。私も何か暖色系の色彩が欲しいと思いました。果たして何色のものを置いたら作品が映えるか、どんな形がしっくりするか、解はいろいろです。考えてみましょう。



黒田重雄「嵯峨野散策_祇王寺にて」F6（水彩）

作者コメント

曇りの日でしたが苔の美しさは秀逸でした。随分前の京都旅行時の景色ですが、作品にして思い出としました。苔の質感が難しく苦戦。庭の雰囲気を感じていただければ幸いです。

喜田コメント

京都の落ち着いた日本庭園の深い雰囲気魅せられて描いた作品。

黒田さんの力量は鋭い観察力と微細な写実力です。庭に立つ木々の樹皮の表情や垂れ下がった枝や葉っぱの一つ一つ、遠くに透かして見える茂った木々を繊細に表現しているところなど、本当に上手だと思います。手前の苔の上に散らせた、数個の椿の赤い房が色彩的な調子を整え、作品にアクセントを加えています。

森閑とした苔むした落ち着いたある庭園の雰囲気を出すために、もう少し手前の林を暗くして、先の林が透けて見えるような工夫をすればよかったのではないのでしょうか。



月川りき江「果物籠とワイン」21cmx17cm（ちぎり絵）

作者コメント

新聞ちぎり絵をはじめから2年になりますが、今までの中で初めて満足した作品になりました。すべて新聞紙のカラーの部分をちぎって貼りますが、左のリンゴはトマトの広告をちぎり、中央のリンゴは海鮮物の広告の中の（お皿に並べた明太子二つ）です。

このようにすぐに決まる時は楽しいですが、目的の新聞が見つからない時は苦労します。

喜田コメント

作者も言っているように、これまでの月川さんの作品の中ですぐれた作品だと思います。月川さんのちぎり絵の場合、素材が新聞紙なので色探しに苦労があると思います。しかし、新聞紙を使うために、プレーンの色紙に比べて深い情緒や複雑な思いを表現できます。この作品の挑戦は手前の布と背景の2色の壁にあると思います。ここに斬新さを表現したのだと思います。

主題の籠の果物、ワインの瓶とワイングラス、これはとても適切な新聞紙を選んだと思います。籠の網目・籠からこぼれる葡萄・林檎の色彩感・ワインボトルの表面のグラデーション・瓶のラベルの面白さ・すべてに感心させられました。

今回の作品はとてもお洒落でシャープですが、私はどちらかと言えば、新聞ちぎり絵の特徴である、暖かさ・多少のどん臭さ・山下清の作品のような面白さ、などを期待しています。ちぎり絵は、指で新聞紙をちぎる切り口に作者の個性や味わいが出ます。



竹前義博「乃木坂」F6（水彩）

作者コメント

地名のと通りの坂道です。普段何気なく通る道ですが、絵にしようと気をつけながら歩くと、緑が多さに気が付きます。

坂道と言っても、単調な上り坂でなく、多少のデコボコがあり、坂道を表現するのが難しかった。手前に大きく広がる道路の表現も難しく、何回か書き直しました。

喜田コメント

竹前さんは住んでいる港区赤坂あたりを中心にして、都会の風景を切り取って、いつも洒落た作品を描いてくれます。

別荘のある信州須坂の田舎の風景も素晴らしいのですが、都心のビル街の作品も面白いと思います。この作品は道路と両サイドに茂る街路樹の深い緑と、カラフルなビル群が主役です。竹前さんは須坂の田舎風景を沢山描いているので、緑色の使い方がとても上手いと思います。左右に並ぶ街路樹の形や色は竹前さん独特の面白い表現です。私はとても好きです。この絵の一番の問題点はカラフルなビル群の表現の仕方でしょう。

太陽の位置、つまり光の方向はどちらから来ているか、光の方向を決めて林立するビル群に陰影をつけると、作品は生き生きとして来るでしょう。木々や道路に出来る影も描いた方が良いでしょう。ずーっと伸びた道路は下り・そして先で登りになる感じも良く出ています。道路を走る赤と青の車、歩道を歩く人の姿などが作品にアクセントを与えていて、竹前さんの個性を出していると思います。



武智康子「愛染院門前」F4（水彩）

作者コメント

愛染院は我が家の近く(練馬区春日町)にあって春日局に縁のある寺院です。お天気がよかったので、門前でスケッチと写真を撮り、家で色をつけました。前庭も美しかったので敢えて少しだけ描きました。屋根瓦は初めてで難しかったですが、思ったより上手く描けたかなと思います。門柱が朱色で美しかったです。

喜田コメント

しっかりとした風景画を送っていただき有難うございます。この作品は武智さんの持ち味が良く出ている良い絵だと思います。苦戦した瓦屋根はしっかりと描けたと思います。武智さんは水墨画を何年も描いていたことによって、黒の使い方がとても上手です。濃淡をうまく使って、大門の瓦・扉・塀の瓦や腰板などを描きました。光と影の表現も上手くできたと思います。手前の大きな左右の石も近景として良い選択でした。もっと良くするためには、門柱の朱色をもう少し強くする、木々の間に見える母屋の屋根の角度など推敲して、もう少し丁寧に描く、などでしょう。とても良い作品です。



筒井隆二 「ミニトマト」 F4 （水彩）

作者コメント

家内と二人、野菜を育てています。今年はミニトマトが豊作、新鮮な味覚を楽しんでいます。

喜田コメント

新鮮で瑞々しく、生命力豊かなトマトですね。

まず、構図が抜群です。茎・枝・たくさんの葉の重なり・トマトの配置の構図的バランスが最高です。

真っ赤に熟れたトマトを生かすために、一枚一枚の葉を丁寧に色彩を選んでの表現がこの作品の成功のポイントになりました。真っ赤に熟れたミニトマトの実の表現も素晴らしいです。

特に実と実の重なりや枝と実を繋ぐ「へた」の表現が絶妙です。

葉の隙間から見える青い大きな植木鉢の湾曲部分と、肥沃な土を描いたところは大胆な構図であり、素晴らしい。

左下部の茶色の部分は上部と同様に白く抜いた方が良かったと思います。

今月の作品もとても良い作品です。



若林哲史 「バルコニーに咲くカサブランカ」 F4 （水彩）

作者コメント

純白の百合の存在感を出すのが難しいです。

喜田コメント

若林さんはお宅のバルコニーでカサブランカを鉢植えで育てているのですね？

この作品を黙って見つめていると、見事な花・多様な葉っぱ・そして透けて見える背景すべてが一体となって一つに溶け合っただけ弦楽四重奏を聴いているような気持ちにさせる作品です。作者がおっしゃるように「純白のユリの存在感」を出したいなら、3つの花にももう少し主張させなければなりません。花卉の形を少しだけ変形させたり、花の白を際立たせるなど、工夫をしてみてください。若林さんの作品はいつも魅力的ですが、今回は「背景」について考えてみましょう。基本は黄色、そこにブルー・パープル・ラベンダーなどを配置して物語を組み立てました。見事なハーモニーです。



岡田理子 「アネモネ」 磁器皿(直径 26 cm) (皿絵)

作者コメント

夜に撮影したので少し暗くなってしまいました。が
バックは私の好きな鮮やかなラベンダーのラスター彩です。

喜田コメント

岡田さんは以前から西洋陶器(白磁)に絵付けする、いわゆる「ポーセリンアート」を勉強しています。今回は最新の作品「アネモネ」を送ってくれました。
私は「ポーセリンアート」のことを良く知りませんが、この作品を観て、不思議に画面に吸い込まれるような気持になりました。全体がラベンダー色で、皿一周に金色の模様が施され、中心に「アネモネ」が描かれています。古色蒼然を感じさせるような色合いはどのようにして描くのでしょうか。描かれたアネモネの花は突出することなく、とても控えめでいながら、しっかり主張しています。調和の取れた作品です。



井上清彦「中央図書館のガンジー像」F4（水彩）

作者コメント

ガンジー像の立体感をだすのが難しかった。前傾姿勢にしないとガンジーらしくない。

喜田コメント

何時も締め切りギリギリながら、今月も井上さんは面白い作品を描いてくれました。コロナ禍で遠出が出来ない時期なので、地域の中央図書館などは結構にぎやかですね。好天気なのか、図書館前の広場にはマスクをした人々が適度の間隔をあけて、新聞や本やスマホを楽しんでいます。平和な風景です。

しかし、この作品の主題は手前の「彫刻の立像」です。この立像は「マハトマ・ガンジー」、インド独立の父であり、七つの大罪でよく知られています。

作者が言う、「立像の立体感」については十分感じが出ていると思いますが、ガンジー像に見えません。ガンジーの特徴は、①頭が剥げている、②頭部が小さい(8頭身)、③痩せている、④上半身は袈裟懸けして、下半身は短い、⑤姿勢が悪い(背中丸く前かがみ)、⑥遍路棒、などです。さて、この作品を観て感じた事、

(1)3人の人物がとても面白い。

(2)近景の灌木・草の茂み、と遠くの木々を、色調・濃淡・形などで描き分ける。

<遠くが暗くて近くが明るい、逆に近くが暗くて遠くが明るい>いずれでもOK。

(3)ガンジー像はシルエット風に描いた方がよい。主題はガンジー像でなく、日だまりのベンチで三々五々、読書を楽しむ人々にしてガンジー像は添景にしたい。

(4)このガンジー像は行進する兵士のような、もっと前かがみの痩せた老人風に描く。

(5)この作品はもっと時間をかけて描きこむとだんだん良くなると思います。



喜田祐三「桜咲く私の住む街(府中)」F20 (油彩)



スケッチ (はがき大) 色鉛筆

作者コメント

私はコロナの時期、運動不足対策を兼ねて、私が住む府中市の市内を毎日歩いています。小さなスケッチブックと色鉛筆を携帯して、「私の住む街 100 景」シリーズのスケッチをしています。その中から気に入ったものを選んで油彩画にしています。この作品は 1970 年代に米軍基地が返還された後、基地跡地にできた「府中芸術劇場」と広大な「芸術劇場公園」の近くのスケッチです。桜が満開の 3 月末のスケッチから描きました。とてもお洒落な町並みで、私が気に入っている風景です。